

沖縄県内幼稚園における地域に根差した造形教育の取組み ～身近な植物を用いた造形や染め織りの実践に関する調査2～

Regarding Art Education Using Native Plants in Kindergarten in Okinawa Prefecture.

— Research and Questionnaire Results on Molding, Dyeing and Weaving Native Plants in Art Education Activities Vol.2—

佐久本 邦 華
Kunika Sakumoto

要 約

本研究は、沖縄に伝承されてきた祭祀や行事、そして工芸および民芸が、どの程度沖縄の幼児教育の現場に取り入れられているのかについて調査した研究の第2章である。2016年、沖縄キリスト教短期大学紀要第45号において沖縄県内の保育所・保育園を対象に、「保育現場における幼児と沖縄の植物とのかかわり」についてのアンケート調査を行った。そして今回の研究は、調査対象を沖縄県内の幼稚園へと移し、その結果をまとめたものである。250か園へアンケートを依頼し、回収できた173件のデータを分析した。その結果、ムーチーづくりやエイサーなど、沖縄に伝承されてきた祭祀や行事等を取り入れている園は全体の80%を超えたが、沖縄の植物を用いた昔ながらの玩具製作（ソテツの葉の虫かごや、アダンの葉で作る風車等）を取り入れている園の割合は約12.7%にとどまった。一方、落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面づくり、身近な植物での色水遊びなど、沖縄の植物を用いた造形活動を取り入れている園の割合は56.1%と半数を超えたが、身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物制作を取り入れている園の割合は12.1%と1割強であった。この割合を押し上げ、沖縄の植物や染物文化が、より幼児教育の環境として身近なものとなるよう、今後教育者側への草木染め技術の普及や、地域人材の活用などを進める必要があると感じられた調査研究であった。

はじめに

地域に根差した行事、祭祀、芸能、美術工芸品や民芸品、玩具。それらから生みだされる音、リズム、言葉、響き、色彩や文様は、その土地で育つ人々の感性を形作る。それらを体感し、感受性を高めることは教育の上で大きな意味と役割を持つ。自らの育った地域に受け継がれてきた文化や歴史を経験を通して知ることが、将来他の地域の人々の文化や歴史についての理解を深める素地となり、世界に開かれたまなざしを持つための基盤となる。このような視点から、幼少期より地域に根差したさまざまな素材を用い、地域に受け継がれてきた文化を取り入れながら子どもたちの感性を育て、そして創造性を刺激できるような魅力的で楽しい造形プログラムを作成し、沖縄の自然や文化的環境がより幼児たちの身近なものとなるよう働きかけることが望ましいと考えるに至った。このような造形プログラムを作成するに先立ち保育・幼児教育現場の現状を把握すべく、2016年度に保育所・保育園を対象とした調査研究を行い、そして今回幼稚園を対象とした調査を行うに至った。

昨年2016年8月に実施した、沖縄県内保育所・保育園における、身近な植物を用いた造形や染め織りの実践に関する調査（144件のデータを分析）の結果、「エイサーやムーチー作りな

ど、沖縄の人に広く知られていると思われる沖縄の伝統行事を活動に取り入れている園の割合は、全体で97.2%と非常に高かったが、沖縄の植物を用いた昔ながらの玩具づくり（ソテツの葉を編んだ虫かごやアダムの葉で作る風車など）といった伝承造形活動を取り入れている園の割合はおおむね8～15%前後と極端に下がった。さらに現在、沖縄の身近な植物を使った染め物制作を取り入れている園は、宮古・八重山地区の13%を筆頭に、南部地区および北部地区で約10%、中部地区では2.4%と下がり、その他離島では0.0%であった。」（佐久本邦華，2017，沖縄県内保育所・保育園における地域に根差した造形教育の取り組み，沖縄キリスト教短期大学紀要第45号，p.63.）。アンケートに答えてくださった先生方も、沖縄の植物や草木染めに興味があるものの、本島内の先生方に関しては実際に草木染めを体験したことのない先生方の割合は高く、先生方への普及活動の必要性も感じられた結果となった。

そのような結果を受け、幼稚園の現場でも同様の傾向がみられるのか調査を行った。アンケートは幼稚園でどの程度伝統行事、美術工芸や民芸が取り入れられているか、また身近な植物を用いた造形活動が取り入れられているかを調査する項目を設定している。さらにアンケートに回答して下さっている先生方の伝統工芸に対する意識調査も質問事項に入れている。アンケート内容は、保育所・保育園に対して実施した内容とほぼ同様であるが、2，3箇所、変更を加え、設問に対しより迷わず、答えていただきやすくなるよう作成し直した。また叩き染めではハンマーを使用するが、保育園児にとってハンマーは重く、適切な使用が難しかった経験から、幼稚園におけるハンマーやのこぎりの使用状況に関する質問項目を追加することとした。

表 1 変更箇所

2016年実施： 保育所・保育園対象のアンケート		変更内容	2017年実施： 幼稚園対象のアンケート	
アンケートの最後	保育所・保育園で取り入れている、「沖縄の植物を用いた造形プログラム」がございましたら、内容を教えていただければ幸いです	記述欄をQ.7へ移動	Q.7	幼稚園で取り入れている、「沖縄の植物を用いた造形プログラム」がございましたら、内容を教えていただけると嬉しいです。
		新設	Q.8	園での子どもたちの造形活動に、のこぎりやハンマーの使用を取り入れていますか？
Q.14	やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？	下線部の文言の追加	Q.16	やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、 <u>外部講師を招いて</u> 、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？
Q.15	やり方が簡単であれば、園で草木染めを体験させたいと思いますか？	下線部の文言の追加	Q.17	やり方が簡単であれば、幼稚園で教諭自身が <u>立案し</u> 、草木染めを体験させたいと思いますか？

1. 方法

1.1 アンケート

アンケートは単一選択型の記名式とした。質問項目は全17問であり、問7に記述式の欄が用意されている（アンケート用紙は【付録】に添付）

1.2 アンケートシートの質問事項

表2 質問事項

<p><u>A. 幼稚園での取り組みについてお伺いします。下記の該当するところに○をつけて下さい。</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. 幼稚園で、ムーチーづくりやエイサーなどの沖縄の伝統行事を取り入れている。2. 幼稚園で、ソテツの葉を使った虫かご作りや、葉を編んで作る玩具作りなど、沖縄に伝承されてきた遊具製作を取り入れている。3. 幼稚園で、落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面作りなど、沖縄の植物を用いた美術造形プログラムを取り入れている。4. びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染織物が、何らかの形で園の生活に取り入れられている。5. 幼稚園で、びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。6. 幼稚園で、身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物制作を取り入れることがある。7. 幼稚園で取り入れている、「沖縄の植物を用いた造形プログラム」がございましたら、内容をお教えいただけると嬉しいです。（記述式）8. 園での子どもたちの造形活動に、のこぎりやハンマーの使用を取り入れていますか？ <p><u>B. アンケートを書いて下さっている先生への質問です。該当するところに○をつけて下さい。</u></p> <ol style="list-style-type: none">9. 沖縄の植物に対して、興味・関心がありますか？10. 沖縄の染め織物に対して、興味・関心がありますか？11. 沖縄の伝統的な染め織物は世界的にも高く評価されていることをご存知ですか？12. フクギやガジュマルの葉、ハイビスカスの花びらなどを用いた絞り染めが、簡単に出来ることを知っていますか？13. 「たたき染め」という、ハンマーで葉を直接布にたたき、染め付ける技法を知っていますか？14. 草木染めを実際に体験したことはありますか？15. 子どもたちに、沖縄の自然・環境にもっと触れてほしいと思いますか？16. やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、外部講師を招いて、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？17. やり方が簡単であれば、幼稚園で教諭自身が立案し、草木染めを体験させたいと思いますか？

アンケートは『「幼稚園における沖縄の植物を用いた造形活動」についてのアンケート』というタイトルで8月初旬に送付、9月上旬までに回答を得た。Q.1～Q.8までは、幼稚園での取り組みに関する質問であり、Q.9～Q.17までは、主にアンケートに答えて下さっている先生に対しての意識調査項目となっている。

2. 分析

2.1 調査対象

県内の公立幼稚園217園、および私立幼稚園33園の合計250か園（2017年4月現在）全園にアンケートを依頼した。内訳は北部地区／北部福祉保健所管内（名護市・国頭村・大宜味村・東村・今帰仁村・本部町・伊江村・伊平屋村・伊是名村）31か所、中部地区／中部福祉保健所管内（宜野湾市・沖縄市・うるま市・恩納村・宜野座村・金武町・読谷村・嘉手納町・北谷町・北中城村・中城村）81か所、南部地区／南部福祉保健管内（那覇市・糸満市・浦添市・豊見城市・南城市・西原町・与那原町・南風原町・八重瀬町・渡嘉敷村・座間味村・粟国村・渡名喜村・南大東村・北大東村・久米島町）96か所、宮古・八重山地区／宮古福祉保健管内・八重山福祉保健管内（宮古島市・多良間村・石垣市・竹富町・与那国町）42か所となっている（図1参照 区分けは「保健所管轄区域案内（沖縄県）」厚生労働省による）。



図1 「保健所管轄区域案内（沖縄県）」厚生労働省による

全250園中、173園より回答を得た。回答率は69.2%である。内訳を以下、表3に示す。

表3 アンケート依頼園数および回答数

	全幼稚園数（公立・私立含む）	回答あり
北部地区	31	14
中部地区	81	63
南部地区	96	73
宮古・八重山地区	42	23
合計	250	173

2.2 分析対象

アンケートは2016年8月初旬に送付、同年9月中旬までに回収し、回答のあったすべてのアンケートを調査対象とした。設問によっては地域による傾向の違いを調べるため、保健所管轄区域での区分けを利用し、統計の比較を行っている。（ただし、前回の保育所・保育園を対象としたデータの分析では保健所管轄区域に対する認識の弱さから、渡嘉敷村、粟国村、南大東村の3か所を南部地区としてではなく、その他のエリアとして分析していた。今回、上記3か所はすべて南部地区／南部福祉保健管内の集計としてまとめている。）

3. 集計結果

次に示す表4～表9に集計結果を示す。Q.1～3は沖縄の伝統行事や身近な植物を用いた造形活動に関する質問。Q.4～6は沖縄の素材を用いた染め・織りの造形活動に関する質問。Q.7は沖縄の植物を用いた造形活動に関する記述回答欄。Q.8はのこぎりやハンマーの使用に関する質問。Q.9～11はアンケートをお答え頂いている教諭自身の染め・織りに対する意識調査。Q.12～Q.17は身近な植物を用いた染めに関する質問となっている。

3I Q.1～Q.6について

3II Q1～Q6の設問内容

A. 幼稚園での取り組みについてお伺いします。

- Q.1 幼稚園で、ムーチャーづくりやエイサーなどの沖縄の伝統行事を取り入れている。
- Q.2 幼稚園で、ソテツの葉を使った虫かご作りや、葉を編んで作る玩具作りなど、沖縄に伝承されてきた遊具製作を取り入れている。
- Q.3 幼稚園で、落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面作りなど、沖縄の植物を用いた美術造形プログラムを取り入れている。
- Q.4 びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染織物が、何らかの形で園の生活に取り入れられている。
- Q.5 幼稚園で、びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。
- Q.6 幼稚園で、身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物制作を取り入れることがある。

32 Q.1～Q.6の集計結果

表4 Q.1～Q.6 集計結果

	Q.1	Q.2	Q.3	Q.4	Q.5	Q.6
1. はい	143	22	97	18	7	21
2. 過去に取り入れたことがある	28	94	53	29	14	48
3. いいえ	2	57	22	124	152	104
未回答	0	0	1	2	0	0

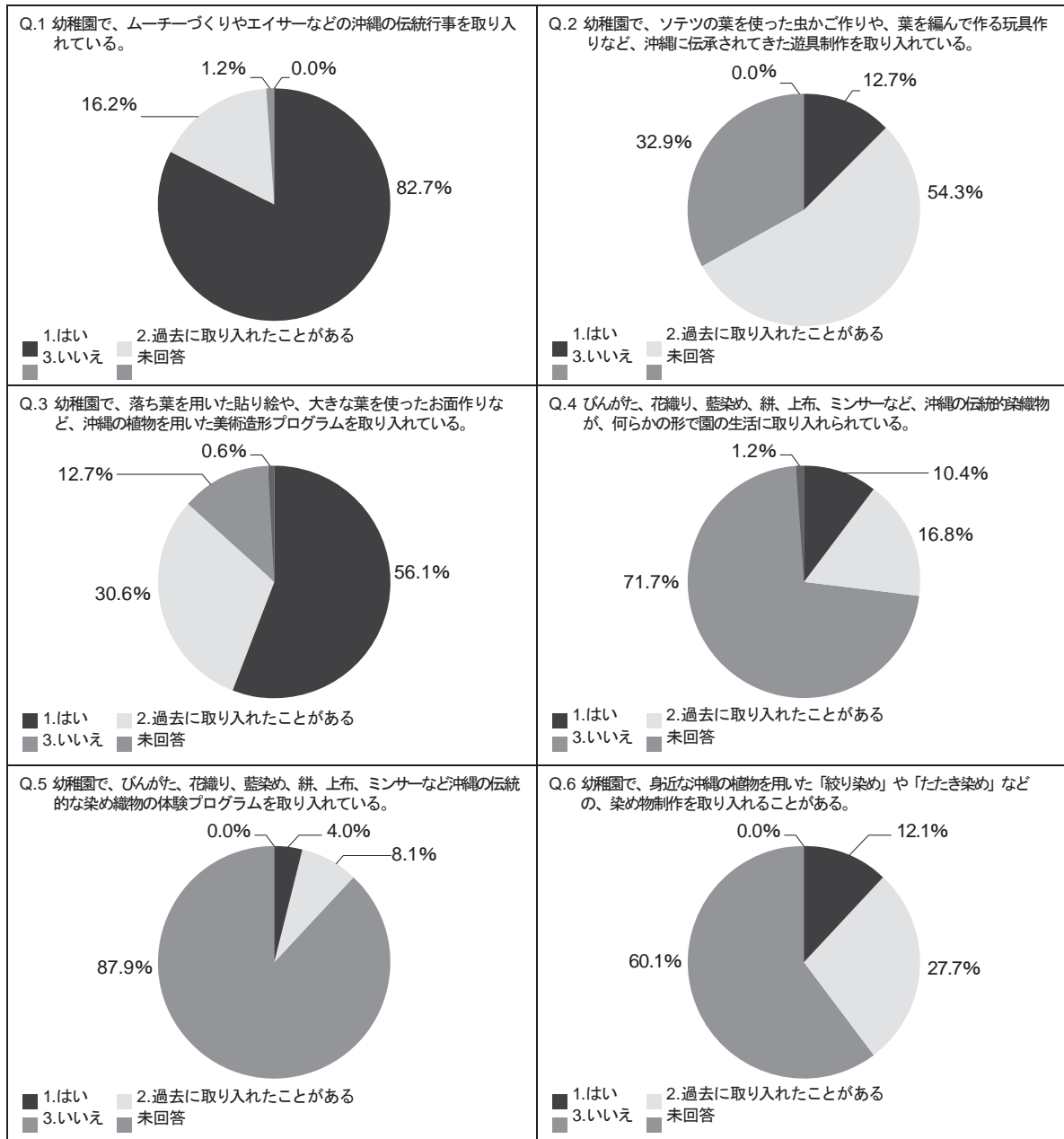


図2 Q.1～Q.6までの集計結果 (円グラフ)

33 Q.1～Q.6集計結果の分析

Q.1の結果より、ムーチャーづくりや、エイサーなどの沖縄の伝統行事を取り入れている園

は全体の80%を超えた。沖縄の代表的な文化が多く園で取り入れられている様子がわかった。大変素晴らしいことだと思う。エイサーは音やリズムを身体表現を通して取り入れることができる。近年は創作エイサーも増えており、沖縄の伝統文化の今に繋がるエネルギーを体感できるプログラムである。その他、地域に残る行事・祭祀にも、沖縄人としての感性を刺激し形作ることば・音・リズム・色・形が内包されている。今後も継承・発展して欲しいと願う。ムービー作りは、由来や意味を通して行事に込められた想いを知ることができ、月桃の香りや効用についても知ることができる。食を通して文化を知る重要な機会である。おいしい幸せな気持ちとともに、子どもたちの記憶に残したい行事である。

Q.2に関して、沖縄に伝承されてきた玩具製作の取り入れには「過去に取り入れたことがある」と答えた園は多かったが、現在取り入れている園の割合は約12.7%にとどまった。アンケートには「祖父母参観の遊びコーナーで沖縄に伝承されてきた遊具製作を取り入れている。」という記述があった。そうした取り入れ方をしている園が他にもあるかもしれない。これは保育所・保育園での調査でも同様の傾向が見られたのだが、技を伝承できる大人が少なくなってきた現状がある。昨年の研究「沖縄県内保育所・保育園における地域に根差した造形教育の取組み」（佐久本邦華，2017，沖縄キリスト教短期大学紀要第45号，pp.63-77.）の保育所・保育園からの回答の中に「伝承できる祖父母世代がいなく、伝承が難しい」との声があった。私も親世代となったが、幼いころに作った経験のあるソテツの葉の虫かごやアダンの葉の風車も作り方をすっかり忘れてしまい、こうした玩具作りは祖父母に頼り、自分では我が子に教えてこなかった。現在の保育士や幼稚園教諭も同じ状況の方が多いのではないだろうか。昨年催事で伝承玩具製作体験コーナー（マーニーの葉を編んだ熱帯魚、カタツムリ、馬などの玩具制作）があり、子どもたちが夢中になって製作に取り組んでいた。祖父母や地域交流も大切ではあるが、親をはじめ、保育士や幼稚園教諭自身が伝統玩具の制作方法を習得し、日々の園での活動の中に積極的に取り入れていけると良いのではと、考えさせらる光景であった。

Q.3 落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面づくりなど、沖縄の植物を用いた造形活動についての設問には、「1. はい」と答えた園が56.1%と半数を超えている。しかし、旧幼稚園教育要領第1章総則の第1、幼稚園教育の基本には環境を通じた教育の重要性がうたわれている。それは今後も大きく変わるものではない。自然環境は大切な空間的環境である。子どもたちが沖縄の自然環境の中で遊びを通し、体験や経験から様々な学びを得て成長していくことを考えるとき、子どもたちが沖縄の自然環境に触れ、造形遊びをする園の割合が56.1%というのは、想定よりも低い値であった。新聞紙や食品トレーなどの廃材を利用する造形遊びを取り入れていることは多いと思われる（今後の調査課題）が、自然の持つユニークな形や色の素材に触れ、それらをどのように遊びへと展開していけるかという想像力と創造力を培うためにも、もっと多くの園で沖縄の植物を用いた造形活動が取り入れられると良いと思う。

Q.4の結果より、「びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染織物が、何らかの形で園の生活に取り入れられている。」は10.4%、Q.5「幼稚園で、びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。」は4.0%にとどまった。伝統工芸の豊かな島でありながら、その技術の難しさゆえに、それらを製作する体験を幼児期の教育環境の中に取り入れることは、なかなか難しいと考えられる。せめて伝統工芸品を何らかの形で日々の生活の中には取り入れてほしいと願うところである。工芸品は日常の中で使ってみてはじめて、本物の持つ良さに気づけるところがあ

る。工芸にかかわる職人の方々や団体と協力し、交流を持てるような人的環境を作り、子どもたちに本物の工芸に触れあえる機会を取り入れていける道はないだろうか。自らが生まれ育った沖縄の誇る芸術を知っていることで、異文化の持つ芸術や文化をより深く知り理解することができる。そのことを考えるとき、美術工芸に触れられる機会は、幼児教育にとって必須であると筆者は考える。

Q.6「幼稚園で、身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物制作を取り入れることがある。」は12.1%であった。しかし「過去に取り入れたことがある」と答えた園が27.7%にのぼり、約3割を占めている。どういう理由で現在取り入れることがなくなったのか、気になるところである。叩き染めなどは、身近な植物の色と形を、改めて観察し認識できる、非常に科学的アプローチの入ったプログラムである。葉によって予想より水分が少なく染め付けが弱かったり、逆に見た目以上に水分がありすぎて輪郭がぼやけてしまうこともあり、各々の植物が持つ特性を知ることができる。緑だったはずの葉が、染めてみると茶色に染め付けられたり、紫がかって染め付けられたりと、植物の持つ多様な色彩への関心も好奇心を刺激する。浸染による絞り染めでは、月桃の葉や茎、根っこからは赤の染め液ができ、フクギの深緑の葉からは鮮やかなレモンイエローの染め液ができる。染めを通して、改めて自分がどれほど豊かで色鮮やかな世界に生きているのかを感じ取ることができるようになる。ぜひ、簡単な染めの方法を取り入れ、子どもたちにも、このような植物の持つ、不思議な色彩の世界を体験してほしいと思う。

34 Q.6 身近な沖縄の植物を用いた染め物制作の取り入れについて（地域別）
 ここで、Q.6に関して、地域別集計結果を表5、および円グラフ図3に示す。

表5 Q.6 地域別集計結果

	七原地区	中野地区	謝野地区	時古八重山地区
1. はい	2	7	11	1
2. 過去に取り入れたことがある	6	14	20	8
3. いいえ	6	42	42	14
未回答	0	0	0	0

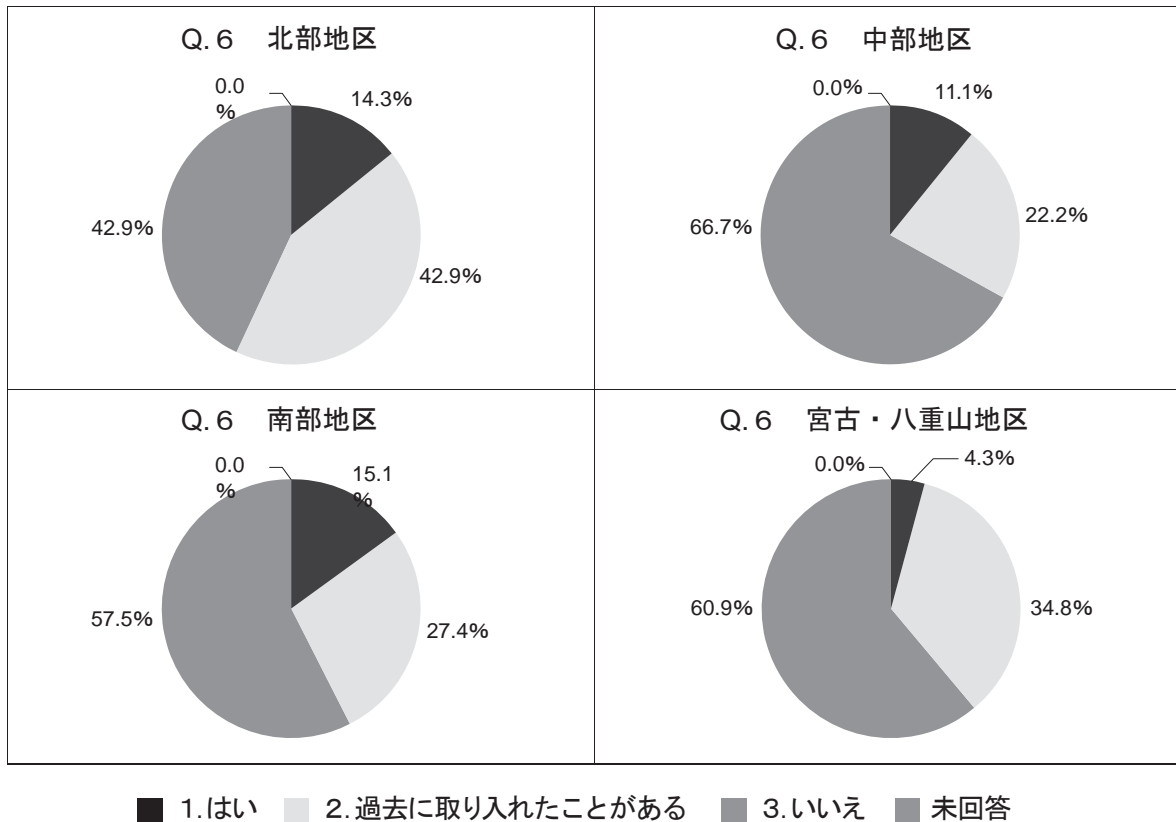


図3 「Q.6 幼稚園で、身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物制作を取り入れることがある。」に関する地域別集計結果（円グラフ）

Q.6に関する回答を地域別に確認する。本格的な藍染や泥染めではなく、月桃やヨモギなどの身近な植物を染めるということであるが、その地域に染め物の文化が根付いていればより教育現場への取り入れが容易なのではないかと想像していた。しかし、北部地区や南部地区は「1. はい」と答えた園が14～15%、中部地区は11.1%、宮古・八重山地区にいたっては4.3%とかなり低い数値となった。北部地区は琉球藍の藍染や芭蕉布、南部地区はウージ染めや琉球絣が盛んで、そうした染め織りの環境が整っている分、幼稚園への取り入れの割合も高くなるだろうと想像できた。しかし宮古・八重山地区では、家庭に機織り機のある家も多く、八重山木藍や苧麻があちこちに植えられており、染めの環境が人的にも物的にも充実している。したがって身近な植物を染めることを園で取り入れることも多いのでは？と予想していたので、4.3%という数値に少し驚いている。何が原因なのだろうか。宮古・八重山地区では「Q.5 幼稚園で、びんがた、花織り、藍染め、絣、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。」の設問にも23か園中「1. はい」と答えた園はわずか2園であり、身近な植物も、本格的な染め体験プログラムも、現在は取り入れられていない様子が伺える。染めの環境が充実している分、もったいなく感じる結果である。そして、中部地区は「3. いいえ」と答えた割合が66.7%と4地区の中で最も高く、過去にも現在にも染めが取り入れられていない現状が見えてきた。中部地区には読谷山花織や知花花織という立派な染織工芸がある。染織をもっと身近なものとして取り入れ、身近な植物を用いた草木染めに関してもなんとかして底上げを図りたいところである。

3.2 Q.7について

3.2.1 Q7の設問内容

Q.7 幼稚園で取り入れている、「沖縄の植物を用いた造形プログラム」がございましたら、内容をお教えいただくと嬉しいです。【回答は筆記形式】

3.2.2 Q7の集計結果

Q.7に関して、多くの園から記述を頂いた。主に以下の内容であった。重複する内容は簡略化し、記載している。

【伝承遊び】

- ・祖父母交流会で、アダンやソテツの葉を使った製作遊びを取り入れている。虫かご、風車、時計作りなどのいろいろな製作。(複数件)
- ・マーニのそり作り。(複数件)
- ・ソテツの実の笛作り。(2件)
- ・すすきのほうき。

【色水遊び】

- ・チョウマメ、アサガオ等、色が出る花で色水を作ったり、和紙、習字紙に染めたりして遊んでいる。色が出る葉は教師が用意するのではなく、子どもたちが園庭の草花の中からいろいろ試して色さがしをする。
- ・色水遊び(ちょう豆の花、朝顔、マツバボタン、おしろいばな)でジュース屋さんごっこや染め紙あそび。(複数件)

【お面や貼り絵などの造形遊び】

- ・貼り絵やリース作り、ネックレス作り。フクギの葉っぱでスタンプ遊び。
- ・アワユキセンダングサの黄色い花粉でお絵かき。モクマオウ、松の葉、ギンネムなどを用いた製作遊び。
- ・ヨモギの葉の汁でスタンプ遊び。ゴーヤー、オクラの輪切りでスタンプ遊び。夏野菜のスタンプ遊び。(複数件)
- ・落ち葉や木の実を使った製作(クリスマスリースやツリー、トトロなど)。(複数件)
- ・落ち葉を画用紙に貼り付けて動物等を表現する。見立て製作。(複数件)
- ・大きな葉でお面や耳に見立てて遊びに取り入れている。クワディーサ、モモタマナの葉を使ったメン作り。(複数件)
- ・絵の具で葉脈を写し取ったりして遊んでいる。
- ・園の葉を使った色版画。型押し遊びとして発展させ、版遊びへつなげています。それぞれの葉をイメージしてみた手遊びを楽しむことで、自由な発想へとつながります。
- ・サンニン「月桃」の葉っぱを使ったムーチー遊び。むーちーは粘土で作ったり、砂や土で作って、日々の遊びで遊んでいる。
- ・園庭にあるモモタマナの葉やゴーヤーの葉を使ってこすりだしをする。(2件)
- ・ガジュマルの葉でラッパや帽子。クロツグの葉で高跳び。車。
- ・よもぎ、ハーブ、月桃。(匂いをかいで、触れて、形比べ)
- ・とっくりきわたを使ったままごとあそびや種集め。山原でとれたどんぐりを使って砂遊びや造形遊び。

- ・木の実を用いてキーホルダー作り。モダマを使ったキーホルダー。
- ・木のみを使って楽器作り（マラカス）。
- ・ふくぎの葉で船、ハガキ、お金等。ガジュマルの葉で作る笛。ハウセンカの種でイヤリング、ムラサキカタバミでアクセサリー作り（指輪、王冠、等々）。
- ・園庭の落ち葉を集めて天井に取り付けた大きなネットに入れ、落ち葉トンネルに見立てて楽しんだ。季節の葉っぱを用いた。
- ・毎年園庭にある植物（クロトン等）を取ってしながら絵を描き、全クラスの描いた葉を合わせて大きな木を製作している。（6月あいうえおの木）平和教育へつなげている。
- ・ハイビスカスの花びらを1枚1枚にし、鼻の頭につけて「鶏のとさか」にする。
- ・シロツメクサの花（茎から）摘んで、冠やネクレスを作る。
- ・自分たちで育てたツルムラサキでお絵かき、ていんさぐぬ花（ほうせんか）で爪の先を染めたり、身近な昔遊びを楽しんでいる。

【染め】

- ・てぬぐいを染める。
- ・過去に取り入れたことがある造形遊びとして、フクギ染め、藍の叩き染め。
- ・叩き染めなど、アサガオを用いて、ハンマーではなく身近な石を使って遊んでいます。PTA活動の一環で、ふくぎ染めをしたことがあります。
- ・藍染は地域人材活用として年に1回子どもたちのハンカチづくりを行っています。

3.2.3 Q7の集計結果の分析

アンケートの集計結果から、沖縄の植物を用いた造形を取り入れている園の割合は56.1%と半数を超えるにとどまったが、記述からはとても豊かな遊びが展開していることがわかった。すべての園でこうした沖縄の自然を取り入れた遊びの時間がより多く確保され、子どもたちの育ちへとつながっていくことが望ましい。染め部分の記述にあるような「PTA活動の一環」での取り組みや「地域人材活用」としての取り組みなどがより進むと、子どもたちを取り巻く人的環境の豊かさへもつながるので期待したいと思う。

記述の中には、園の想いが強く読み取れるものもあった。「毎年園庭にある植物（クロトン等）を取ってしながら絵を描き、全クラスの描いた葉を合わせて大きな木を製作している。（6月あいうえおの木）平和教育へつなげている。」（南部地区）という、沖縄への想いが伝わってきた記述があった。教育者として、平和を希求する心をつなげていこうとする強い意志が感じられる。また別の園では、「自分たちで育てたツルムラサキでお絵かきをしたり、ていんさぐぬ花（ほうせんか）で爪の先を染めたり、身近な昔遊びを楽しんでいます。染物もいいのですが、もっと身近な祖父母から親へ伝わってきたような、沖縄ならではの遊びを伝えていきたいと思っています。」（北部地区）という、祖父母から両親、そして子どもたちへと、受け継いできたものを伝承することの大切さを伝えている記述もあった。素晴らしいことだと思う。

3.3 Q.8について

3.3.1 Q.8の設問内容

【質問事項】

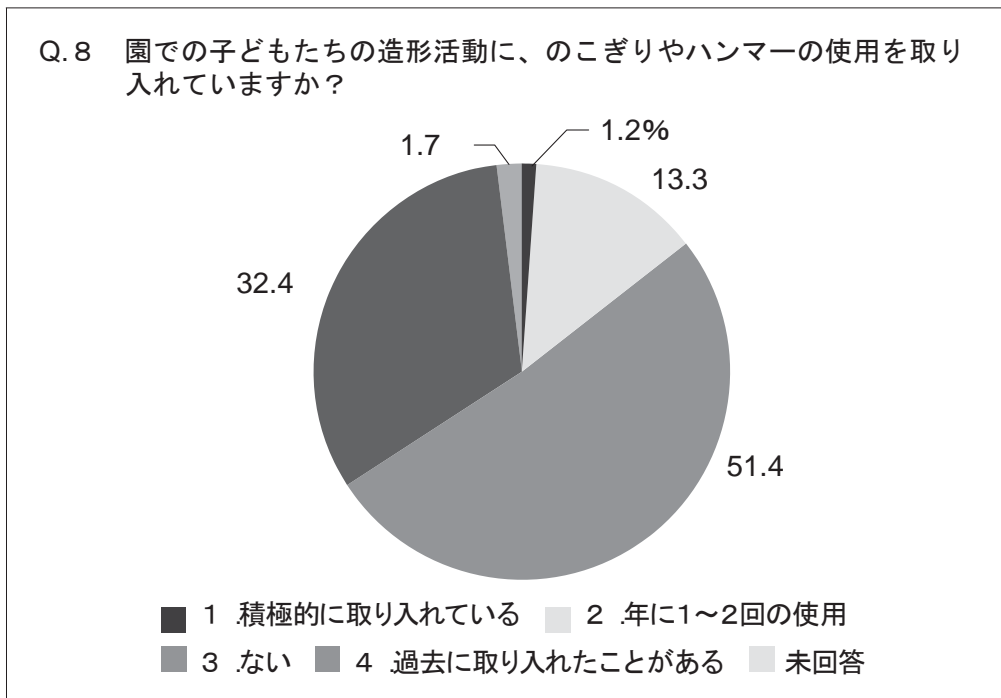
Q.8 園での子どもたちの造形活動に、のこぎりやハンマーの使用を取り入れていますか？

3.3.2 Q.8の集計結果

表6 Q.8の集計結果（園数および割合）

	園数	%
1. 積極的に取り入れている	2	1%
2. 年に1～2回の使用	23	13%
3. ない	89	52%
4. 過去に取り入れたことがある	56	32%
未回答	3	2%

図4 「Q.8 園での子どもたちの造形活動に、のこぎりやハンマーの使用を



取り入れていますか？」に関する集計結果（円グラフ）

3.3.3 Q.8の集計結果の分析

たたき染めワークショップを保育園年長クラスに行う際に、ハンマーを使用する（園によっては石を使ったり、別の道具を用いる所もある）。ハンマーを使用する際には必要以上に大きく振り上げたり振り下ろさない、また自分の身体の前でコンコンと小刻みに打ち付けるなど、安全に使用するための説明を加えて製作活動している。たたき染めではある程度の重さのハンマーでなければ葉の形がきれいに染め付かないのだが、その重さが保育園児には重い。保育園の年長クラスでやっと染め付けられるほどにハンマーを扱えるようになるという印象である。そこで、沖縄ではどの程度、幼稚園でのこぎりやハンマーといった工具を取り入れているのかその実情を調べてみたくなり、今回この設問をアンケートに追加することにした。その

結果が表5、及び図4である。

回答のあった173園中、積極的に取り入れているのはわずか2園であり全体の1%にとどまった。年に1～2回取り入れている園は23園（13%）と増えたが、84%にあたる145園は現在は取り入れていないという結果であった。しかも過去にも取り入れたことのない「3. いいえ」と答えた園が約半数以上の89園にのぼり、全体の52%を占めた。ハンマーのくぎ打ち遊びはよく造形遊びとして書籍で取り上げられているのももう少し多いと予想していたのだが、そうではなかったようだ。これは、沖縄県内の傾向なのか、全国的にそうなのかはわからない。ハンマーものこぎりも使用するにはコツがいる。大人でさえ、上手に使用するにはある程度の訓練がいる。そしてコツがつかめていなければ適切な安全指導もできない。忙しい先生方へハンマーやのこぎりの扱い方や使用方法まで身につけて現場に取り入れてほしいと願うのは多くを求めすぎだとは思いますが、農具や工具は生活には欠かせないツールとして、年に1～2回だけでも取り入れる園が増えてくれればと思う。

3.4 Q.9～Q.11について

3.4.1 Q.9～Q.11の設問内容

Q.9以降は、アンケートに答えて下さっている先生への質問となっている。

B. アンケートを書いて下さっている先生への質問です。

Q.9 沖縄の植物に対して、興味・関心がありますか？

Q.10 沖縄の染め織物に対して、興味・関心がありますか？

Q.11 沖縄の伝統的な染め織物は世界的にも高く評価されていることをご存知ですか？

3.4.2 Q.9～Q.11の集計結果

表7 Q.9～Q.11の集計結果

	Q.9	Q.10	Q.11
1. はい	142	99	91
2. まあまあ／少し知っている	30	67	52
3. あまりない／あまり知らない	1	5	30
未回答	0	2	0

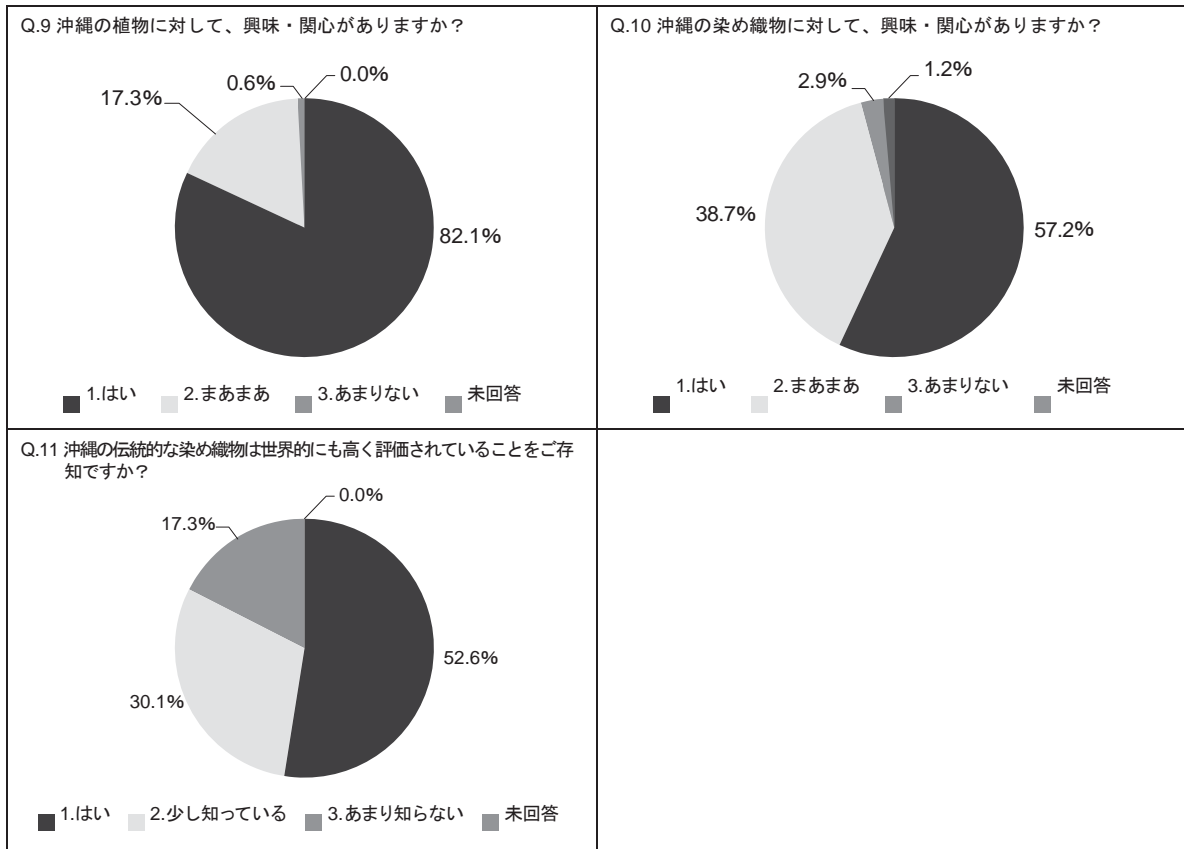


図5 Q.9～Q.11に関する集計結果（円グラフ）

3.4.3 Q.8の集計結果の分析

Q.9「沖縄の植物に対して、興味・関心がありますか？」に関して、「1. はい」と答えた先生方の割合が82.1%にのぼり、沖縄の植物に対する関心の強さが伺えた。Q.10「沖縄の染め織物に対して、興味・関心がありますか？」になると6割程度に下がった。この値が高いかどうかは他府県との比較をしなければ判断はつかないが、決して低い値ではないと思う。染め織物と植物にはとても深い関係がある。上布も、芭蕉布も、綿布も植物が原料であり、藍やふくぎをはじめ植物染料も多い。沖縄の植物に興味・関心があるのであれば、沖縄の染め織物に対するの興味・関心も今後上がっていく可能性がある。特にQ.11の問いにあるように、沖縄の伝統的な染め織物は世界的にも高く評価されている事実がもっと広く、そして深く知られるようになれば、さらに沖縄の染め織物に対する興味・関心も高まるのではと強く期待する。

3.5 Q.12～Q.14について

3.5.1 Q.12～Q.14の設問内容

Q.12 フクギやガジュマルの葉、ハイビスカスの花びらなどを用いた絞り染めが、簡単に出来ることを知っていますか？

Q.13 「たたきぞめ」という、ハンマーで葉を直接布にたたき、染め付ける技法を知っていますか？

Q.14 草木染めを実際に体験したことはありますか？

32 Q.12～Q.14の集計結果

表8 Q.12～Q.14の集計結果

	Q.12	Q.13	Q.14
1. はい	29	30	65
2. 少し知っている／少しある	59	37	31
3. あまり知らない／ない	85	106	77
未回答	0	0	0

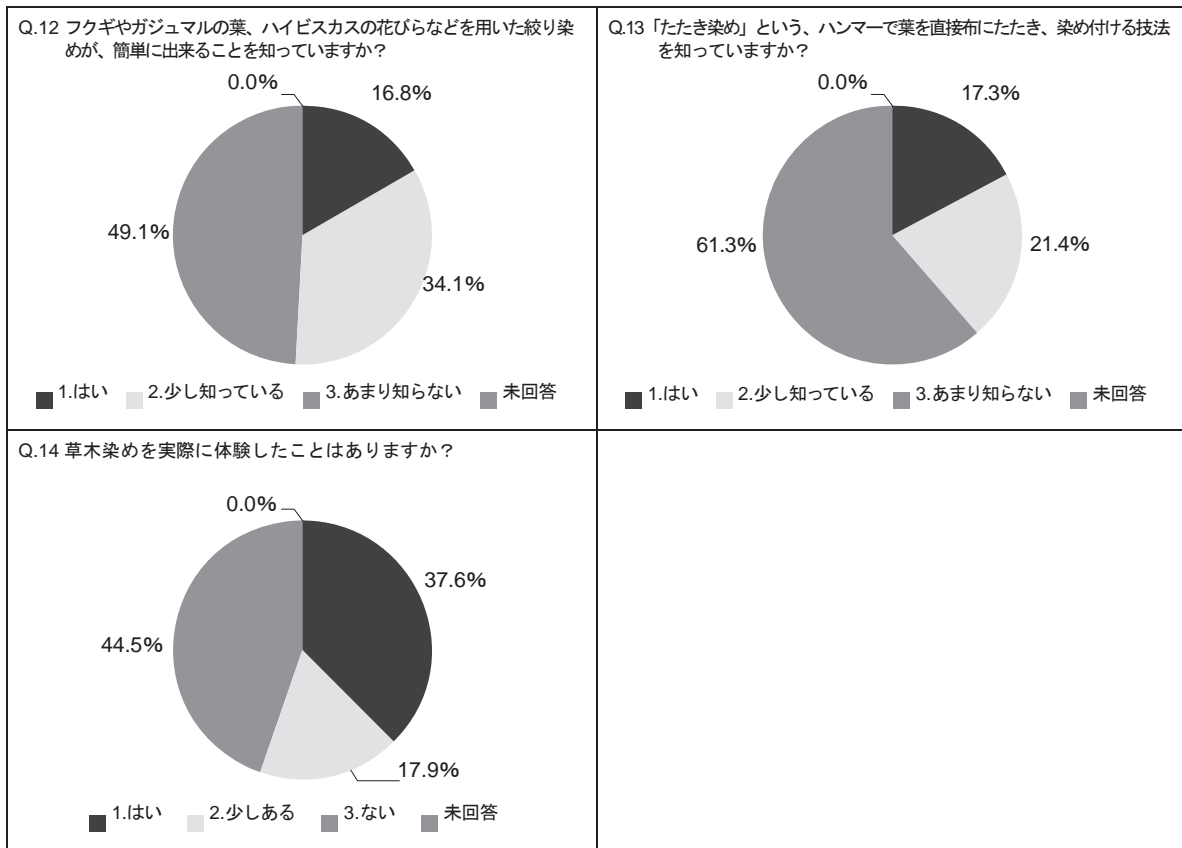


図6 Q.12～Q.14に関する集計結果（円グラフ）

33 Q.12～14の集計結果の分析

Q.14に関して、「草木染めを実際に体験したことはありますか？」の設問には、37.6%の先生が「1. はい」と答えている。「2. 少しある」と答えた割合も含めると55.5%にのぼる。これは予想していたよりも高い割合である。本格的な草木染や藍染の経験であろうか。この割合と、Q.12、およびQ.13の数値が結びつかない。草木染経験者であれば、フクギやガジュマルの葉、月桃の葉などで浸染ができることを知っていそうな気がするのだが、Q.12「フクギやガジュマルの葉、ハイビスカスの花びらなどを用いた絞り染めが、簡単に出来ることを知っていますか？」の設問に「1. はい」と答えたのはわずか16.8%にとどまった。一方「3. あまり知らない」と答えた割合が49.1%と約半数にのぼった。またQ.13の「たたきぞめという、ハンマーで葉を直接布にたたき、染め付ける技法を知っていますか？」の設問にはさらに「3. あまり知らない」の割合が増え61.3%となった。非常にもったいない、歯がゆい思いのする結

果である。草木染め経験者の割合からすると、もっとQ.12やQ.13の「1. はい」の割合は増えてもいいと思う。

前述の「3.1.3 Q. 1～6 集計結果の分析」の個所でも述べたが、叩き染めはとてもシンプルな手法であるが、身近な植物の色と形を改めて観察できる非常に科学的な要素の入ったプログラムである。葉の種類によっては写真で転写したように、生地にくっきりと葉が染め付けられる。普段子どもたちがよく遊ぶシロツメクサなどを染めてもかわいい。木の葉はかぶれの心配なものもあるが、庭や公園の雑草なら日常子どもたちも触れているものである。ミョウバンでしっかり媒染し、日陰で使用する暖簾やコースターのような作品であれば色もちもする。浸染に関しては、鉄や銅、アルミなどの媒染により染料が化学変化を起こし、色が鮮やかになったり濃くなったり多様に変化する化学の側面を持つプログラムである。保育所・保育園や幼稚園で実践する場合には、お漬物等の食品にも使われる焼きミョウバン（硫酸アルミニウムカリウム）を用いた媒染が安全であり、それで十分である。浸染も叩き染めも、各々の植物が持つ色を知ることができる。緑であったはずの葉から、赤茶やピンクの染料が出来て紫かかって染め付けられたり、別の緑の葉からは鮮やかなレモンイエローの染め液、また別の葉からは深い藍色が生まれたりする。植物の持つ多様な色彩への関心が刺激される。ヨモギや月桃など、食材や食品に使われる安全でどこにでも生えている素材で、しかも台所でできる簡単な染めの方法を取り入れ、子どもたちにも、そして先生方にも、このような植物の持つ豊かな色彩の世界を体験してほしいと願う。また、草木染めには匂いが付き物である。月桃やレモングラスは煮立てていると大変芳醇な香りがするが、ヨモギは子どもたちにとっては臭い。この植物の香りを楽しむのも、草木染の魅力の一つである。

3.6 Q.15～Q.17について

3.6.1 Q.15～Q.17の設問内容

- Q.15 子どもたちに、沖縄の自然・環境にもっと触れてほしいと思いますか？
- Q.16 やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、外部講師を招いて、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？
- Q.17 やり方が簡単であれば、幼稚園で教諭自身が立案し、草木染めを体験させたいと思いますか？

㊦ Q.15～Q.17の集計結果

表9 Q.15～Q.17の集計結果

	Q.15	Q.16	Q.17
1. はい	163	128	122
2. 少しある・少し思う	9	41	48
3. ない	0	4	3
未回答	1	0	0

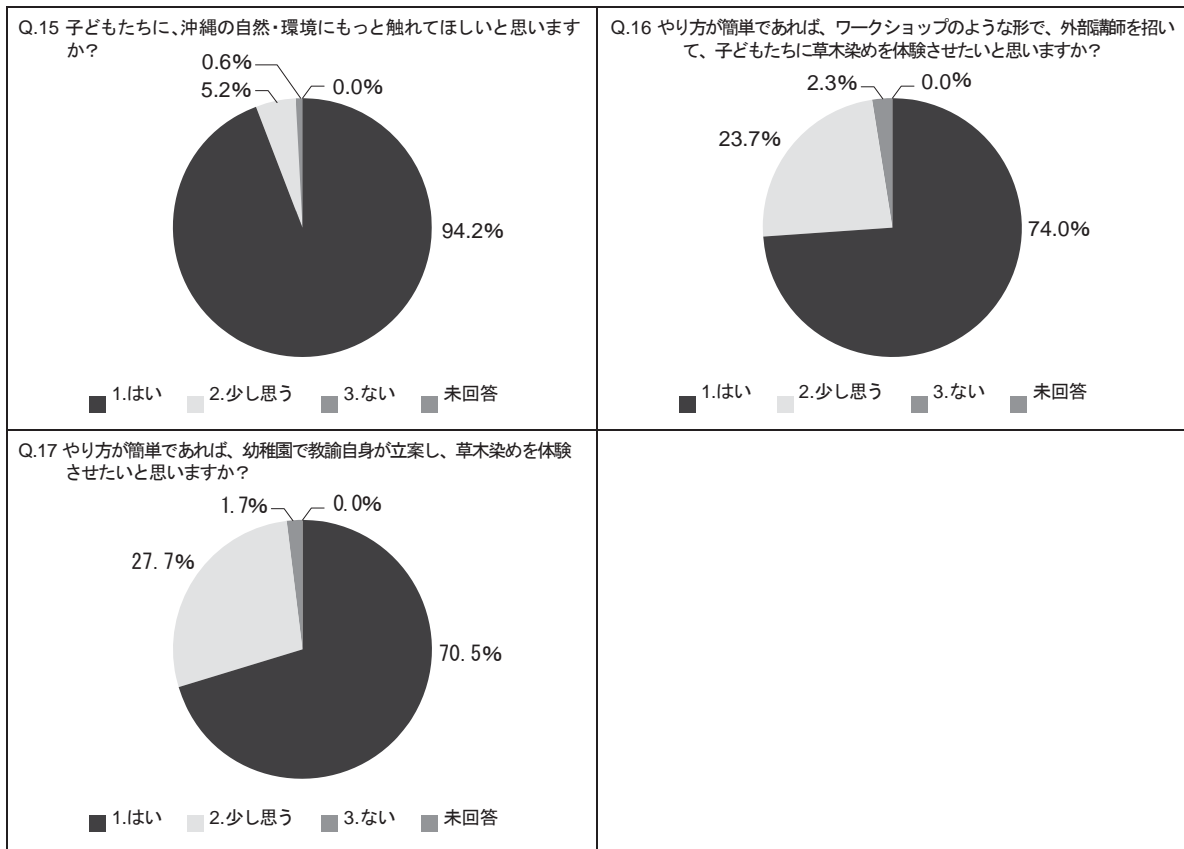


図7 Q.15～Q.17に関する集計結果（円グラフ）

36 Q.15～Q.17の集計結果の分析

Q.15「子どもたちに、沖縄の自然・環境にもっと触れてほしいと思いますか？」に関して、「1. はい」と回答した先生方が94.2%にのぼった。先生方が、恵まれた自然環境の中で、遊びを通して得られる学びの大切さを強く感じていることの現れだと思う。幼稚園は立地により自然に触れることが容易な園とそうでない園がある。30年～40年前にはあちこちに畑や湿地があり、メダカやグッピー、おたまじゃくし、あめんぼう、ヤゴなどの生物に触れることができた。筆者は沖縄にしながら市街地に居住しており、なんと自然が遠い存在になってしまったことかと時々感じてしまう。それが子どもたちの感性に影響していないはずがない。幼児教育の段階でより沖縄の自然と触れ合えるような方法を学び、共有し、教育へ生かしていけたらと考える。

Q.16「やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、外部講師を招いて、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？」に関して、74%の先生方が「1. はい」と回答した。沖縄の植物を用いた草木染めは、沖縄の自然に触れ、沖縄の色彩を知ることのできる有意義な方法であり手段である。ぜひ外部講師をまねいて一度は取り入れてほしいプログラムである。しかし、「お金がかからなければ」と回答した先生もおり、資金面での心配があるようである。「3.2.3 Q.7の集計結果の分析」で述べたように、「PTA活動の一環」や「地域人材活用」としての取り組みなどが利用できると良いと思う。外部の講師を取り入れることは、人的環境を豊かにすることにもつながる。

Q.17「やり方が簡単であれば、幼稚園で教諭自身が立案し、草木染めを体験させたいと思いますか？」に関して、70.5%の先生方に「1. はい」と答えていただいた。これだけの割合の先生方が草木染の方法を習得すれば、一気にすそ野が広がるだろう。先生方にとっても、草

木染めの技術自体を身近に感じ、その楽しみを知っていただければ、沖縄の植物のもつ魅力にもっと触れていただけることと思う。

4. まとめ

今回のアンケート調査の結果から、ムーチーづくりやエイサーなど、沖縄に伝承されてきた祭祀や行事等を取り入れている園の割合は全体の80%を超えたが、沖縄の植物を用いた昔ながらの玩具製作を取り入れている園の割合は約12.7%にとどまった。また沖縄の植物を用いた造形活動を取り入れている園の割合は56.1%と半数を超えたが、身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの染め物製作を取り入れている園の割合は12.1%と1割強であった。しかし、草木染めを体験したことがあると答えた先生方の割合は37.6%、「少し(経験が)ある」と答えた割合も含めると55.5%にのぼり、さらに「やり方が簡単であれば、幼稚園で教諭自身が立案し、草木染めを体験させたいと思いますか?」という問いに対して70.5%の先生方に「1. はい」と答えていただいた。今後普及活動を通して草木染めを取り入れる園が増えるのではという期待が膨らむ結果であった。

今回のアンケートにはQ.7の記述欄以外にも文章を書き入れて下さった先生方が何人もいらっしゃった。その中で、「前園(美崎幼稚園:2016年閉園)の隣は久米島紬生産に取り組んでいる「ユイマール館」があり、年に数回園児と一緒に見学(蚕の飼育・機織り・染める)に行きました。その地域は久米島紬の里といわれるくらい、地域の中に久米島紬生産にかかわる人がたくさんおり、染めの工程や布を乾かす様子が普段から生活の一部でした。素晴らしい地域でした!」(久米島町)という記述があり、その園がすでに閉園されていることを残念に思った。新しい園でもぜひ年に1~2回でもユイマール館へのお見学があると素晴らしいと思う。また、「草木染めのワークショップが離島園でも開催できることを期待します。また、ブログ等で発信いただくと保育(日常)への導入ができ、有難いです。よろしくお願いします。」という声や、「貴保育科の今回のプログラムに興味があります。機会があれば外部講師を招き、またカリキュラムの中に取り入れたいのですが、本園に何か紹介していただくことなどできませんでしょうか?」(ともに宮古島市)といった嬉しい声を頂戴した。現在、現場の先生方に分かりやすく草木染めを取り入れてもらえるよう冊子を作るべく、公益財団法人沖縄子どもの国との共同研究ワークショップや、草木染めを取り入れている園へのフィールドワークなどを進めているところである。その内容をまとめた冊子を完成させるべく、沖縄の植物を用いた草木染めが広がるようさらなる研究を進めていきたい。

最後にアンケートに協力していただいた幼稚園の先生方へ深くお礼申し上げます。お忙しい中アンケートへご協力いただき、誠にありがとうございました。

【参考文献】

1. 佐久本邦華, 2016, 沖縄県内保育所・保育園における地域に根差した造形教育の取り組み～身近な植物を用いた造形や染め織りの実践に関する調査～, 沖縄キリスト教短期大学紀要第45号, pp.63-77, 沖縄キリスト教短期大学.
2. 村田浩子著, 2013, 子どもと楽しむ染め時間!～つくって四季を感じよう～, かもがわ出版.
3. 高山静子著, 2017, 学びを支える保育環境づくり: 幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成, 小学館.

4. 井上美智子・無藤隆・神田浩行編著，2010，むすんでみよう子どもと自然－保育現場での環境教育実践ガイドー，北大路書房.
5. Mariah Bruehl著，2011，Playful Learning - Develop Your Child's Sense of Joy and Wonder-, Roost Books.
6. 小串里子，2011，みんなのアートワークショップー子どもの造形からアートへー，武蔵野美術大学出版局.
7. 磯部錦司・協力／『新幼児と保育』編集部・編集，2016，子どもとアートー生活から生まれる新しい造形活動ー，小学館.
8. 山下久美監修，2012，フレーベルの図鑑ナチュラふしぎをためす図鑑，フレーベル館.
9. 沖縄生物教育研究会編著，2014，フィールドガイド沖縄の生きものたち改訂版，新星出版株式会社.
10. 安里肇栄著，2013，おきなわの山の花さんぽ，ボーダーインク.
11. 沖縄県立博物館・美術館編集・発行，2010，ものづくり今昔ー自然の恵みを活かすー.
12. 松本道子著，2011年，楽しんで，ナチュラル染色ー子どもも一緒に楽しめる染色の本ー，学校法人文化学園文化出版局.
13. 佐藤寛之・新垣志保・吉岡由恵・杉尾幸司，2013，身近な自然を題材にした草木染めワークショップの開催ー社会人向け生涯学習プログラムの一例ー琉球大学教育学部紀要第83号pp.49-54，琉球大学.

【付録】

「幼稚園における沖縄の植物を用いた造形活動」についてのアンケート

実施：2017年6月

A. 幼稚園での取り組みについてお伺いします。下記の該当するところに○をつけて下さい。		
1. はい 2. 過去に取り入れたことがある 3. いいえ		
Q.1	幼稚園で、ムーチーづくりやエイサーなどの沖縄の伝統行事を取り入れている。	1 2 3
Q.2	幼稚園で、ソテツの葉を使った虫かご作りや、葉を編んで作る玩具作りなど、沖縄に伝承されてきた遊具製作を取り入れている。	1 2 3
Q.3	幼稚園で、落ち葉を用いた貼り絵や、大きな葉を使ったお面作りなど、沖縄の植物を用いた美術造形プログラムを取り入れている。	1 2 3
Q.4	びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染織物が、何らかの形で園の生活に取り入れられている。	1 2 3
Q.5	幼稚園で、びんがた、花織り、藍染め、緋、上布、ミンサーなど、沖縄の伝統的な染め織物の体験プログラムを取り入れている。	1 2 3
Q.6	幼稚園で、身近な沖縄の植物を用いた「絞り染め」や「たたき染め」などの、染め物制作を取り入れることがある。	1 2 3
Q.7	幼稚園で取り入れている、「沖縄の植物を用いた造形プログラム」がございましたら、内容をお教えいただけると嬉しいです。	
Q.8	園での子どもたちの造形活動に、のこぎりやハンマーの使用を取り入れていますか？	1 積極的に取り入れている 2 年に1～2回の使用 3 ない 4 過去に取り入れたことがある

→裏面へ続きます。

B. アンケートを書いて下さっている先生への質問です。該当するところに○をつけて下さい。			
1. はい 2. まあまあ 3. あまりない			
Q.9	沖縄の <u>植物</u> に対して、興味・関心がありますか？	1	2 3
Q.10	沖縄の <u>染め織物</u> に対して、興味・関心がありますか？	1	2 3
1. はい 2. 少し知っている 3. あまり知らない			
Q.11	沖縄の伝統的な染め織物は世界的にも高く評価されていることをご存知ですか？	1	2 3
Q.12	フクギやガジュマルの葉、ハイビスカスの花びらなどを用いた絞り染めが、簡単に出来ることを知っていますか？	1	2 3
Q.13	「たたき染め」という、ハンマーで葉を直接布にたたき、染め付ける技法を知っていますか？	1	2 3
1. はい 2. 少しある・少し思う 3. ない			
Q.14	草木染めを実際に体験したことはありますか？	1	2 3
Q.15	子どもたちに、沖縄の自然・環境にもっと触れてほしいと思いますか？	1	2 3
Q.16	やり方が簡単であれば、ワークショップのような形で、 <u>外部講師を招いて</u> 、子どもたちに草木染めを体験させたいと思いますか？	1	2 3
Q.17	やり方が簡単であれば、幼稚園で <u>教諭自身が立案し</u> 、草木染めを体験させたいと思いますか？	1	2 3

※アンケートは本調査に関わる目的にのみ使用し、他の目的には使用いたしません。

実施者：沖縄キリスト教短期大学保育科 講師 佐久本邦華

お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。

